
おうちへ

新品の靴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
おうちへ

【Nコード】
N9761L

【作者名】
新品の靴

【あらすじ】
夢を見た
これが世界？
これが真実？

どうしてこれを書こうと思ったのかはわからない。
ただ、ただ自分が人間だったってことの証明をしたかったのかもしれない

夢をみ

た

インフルエンザが再び流行。

致死性が高く、相次いで感染、死亡。

全国で警報が発せられ、外出禁止令が出された。

いえにかえないと

そう思いながら皆駅のホームを歩く。

できるだけ呼吸をしないように。

みんなが急いで帰ろうとしている。

写し出される非日常。

目の前で血を吐き崩れ落ちる感染者。

いえにかえ・・れる？

誰もが思い、誰もが想う。大切な人のことを。

「ごめんね、急に電話して……。ごめん……。ね……。私の友達は、
あなたしかいなかったの。ご……。めんなさい。本当に……。ごめんな

さい。ただ、知って欲しくて・・・ずっと、ずっと孤独だった。友達でいてくれて、ありがとう。」

泣きじゃくりながら彼女は電話を切る。
誰もが死を覚悟する。

「今日は二人とも仲いいんだね。いつもけんかばかりしてるのに。」
二人は微笑んで答える。

「だってもうすぐ

終わるもん。」

いえに、かえれそうにない

次々と血を吐き。倒れる人々。

なんだか熱っぽい。

電車に乗る。

真昼間の満員電車。

誰もが死を覚悟している。

希望なんてない。光なんてない。

それでも、電車に乗って帰る。

最期に大切な人に会うため

そのためだけに、自分の残りの時間を費やす。

僕？

僕はどうして家に帰っているんだろう・・・

誰もいない家に。

僕は、帰るために電車に乗ったんじゃない。

電車に乗るために、電車に乗った。

大切な人の元へ向かう人たちのいる電車に。

絶望した世界の中の光。

最期だからこそみることのできた光。

それはなんて、皮肉。

家に帰ってこれた・・・。

息が荒い。

熱い

熱い

吐き気が

苦しい

血が

口から血が

苦しい

苦しい

苦しい苦しい死にたくない死にたくない寂しい孤独だ嫌だ嫌だああ

あああああ ああああああ

「苦しい」

「くる」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9761/>

おうちへ

2010年10月17日04時34分発行